

【下田市消防団の分団配置】



団 長	藤井 英次
副団長	岩本 正
副団長	土屋 三雄

本部分団	分団長	笹本 修	団員 9 人
第 1 分団 (旧下田)	分団長	秋山 京吾	団員64人
第 2 分団 (稲生沢)	分団長	西田 竹郎	団員75人
第 3 分団 (稲 梓)	分団長	土屋 昭良	団員53人
第 4 分団 (稲 梓)	分団長	和泉 善高	団員38人
第 5 分団 (浜 崎)	分団長	久保見 巖	団員46人
第 6 分団 (朝 日)	分団長	渡邊 稲夫	団員46人
第 7 分団 (白 浜)	分団長	安藤 明男	団員46人
平成23年 4 月 1 日現在 (団長・副団長含む)			計377人

消防団は、常勤の消防職員が勤務する消防署とは異なり、「自分たちのまちは自分たちで守る」という互助・共助の消防組織で、市の消防機関の一つとして機能しています。普段消防団員は、自営業や会社員などの仕事に就いていますが、火災や地震、台風、水害などの災害発生時には、昼夜を問わず出動し、消防職員と協力しながら、消火活動や住民の避難誘導、被災者の救助・救急活動にあたります。

消防署とは別の組織

消防団の歴史

消防団の歴史は古く、江戸時代、八代將軍吉宗が、江戸南町奉行の大岡越前守に命じ、町組織としての火消組である店火消を編成替えし、町火消「いろは四十八組」を設置させたことが今日の消防団の前身であるといわれています。

下田では、昭和30年3月31日に下田、稲生沢、稲梓、浜崎、朝日、白浜の町村合併が行われたことにより、団員定員1,330人の下田町消防団が編成されました。その後、

消防団の活動は、多岐にわたります。火災、地震、風水害などの災害時には消防署の職員とともに消火活動、住民の避難誘導、被災者の救助・救命にあたります。平常時には、常に安全、迅速、正確にできるよう消防操法などの訓練を行い、消火活動のレベルを上げ、人命救助などに関する技術も身につけています。毎月2回の消防車両や消火栓など機材・器具点検、地域での夜間パトロールなどの啓発活動、防災訓練への協力、祭礼などの警備も行っています。消防団の活動に必要な専門知識や技能を習得するための研修にも参加しています。

また、近年全国的には女性消防団員が増え、地域の高齢者世帯への防火訪問や応急救護手当の講習など、女性ならではのきめ細かい防火啓発活動が行われています。

消防団の活動

消防団は全国におよそ2,300団、団員はおよそ88万人、そのうち女性団員は1万9,000人に上っています。その数は、常勤の消防職員の約6倍の人員となります。平均年齢は38・8歳で団員のおよそ70%が会社員です。

消防団員は全国に88万人

消防団の現状

いっどこで起こるか分からない災害。そんなとき、地域のことをよく知っている消防団の存在がどれほど心強いものかわかりません。東日本大震災において、新聞やテレビなどで消防団の活躍が連日報



全国で地震や風水害など大規模災害が多発する中、消防団は地域防災体制の中核となって活動し、住民の安全を確保しています。今月は、そんな『地域を守る』消防団について紹介します。

『地域を守る』 熱き消防団



「第33回静岡県消防操法大会」が、9月11日に静岡県消防学校（静岡市清水区）で開催され、下田市消防団第1分団の団員が、ポンプ車操法の部に賀茂支部代表として出場。2か月に及ぶ練習の成果を十分に発揮しました。